

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さくら )

事業所番号	0671600260		
法人名	社会福祉法人睦会		
事業所名	ラ・フォーレ天童グループホーム		
所在地	山形県天童市大字道満176-1		
自己評価作成日	平成29年7月1日	開設年月日	平成13年4月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する神社での参拝や山々が一望できる河川敷は毎日の散歩コースにもなっており、自然豊かな環境に恵まれている。温泉資源を利用し、温泉入浴を楽しみ暖房にも温泉の熱を利用し快適に過ごさせている。毎月の行事やバスレクで季節を感じて頂き、漬物作りや笹巻き作り等昔ながらの行事から昔を思い出して頂いている。地域行事の参加や外出によって地域交流を図り、社会との繋がりを感じて頂いている。ボランティアの受け入れも積極的に行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は設立されて16年になる。開設当初からの職員もおり、また、目標達成計画等についての努力の積み重ねも有り、グループホームらしい支援が行われている。特に、全体会議等における理念の内容の確認やセンター方式の書類の確認等により、一人ひとりの要望・希望に対応した支援についての努力がなされている。この場合、一人ひとり等に係る課題に関して、全体会議等でしっかりと話し合いが行われている。また、最近では地域での認知度が高まって、災害訓練への参加の増加や、学校生徒のボランティア活動の増加が見られる。さらには、献立に選択メニューの採用の試みなど、職員の食事に対する努力の大きさは注目してよいであろう。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成29年8月1日	評価結果決定日	平成29年8月14日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域から必要とされるグループホーム」を理念に掲げ、地域と関わりを持てる様に地域の行事に積極的に参加している。事務所に理念を掲示し、職員は意識付に全体会議で議題とし学ぶ機会をつくっている。	理念を基に作成した三項目の方針を事務室に掲げるとともに、全体会議やユニット会議で理念を確認しながら、「地域から必要とされるグループホーム」になるようなケアを実践している。経験豊かな職員を中心にして、様々な場合に理念を活かした実践のあり方を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や近隣のさくらんぼ畑の方よりさくらんぼ狩りに招待され楽しませて頂いている。又、避難訓練に地域の参加協力を頂いている。	利用者が地域の祭りや文化祭、サクランボ狩り、駅伝の応援に参加する一方、事業所等の夏祭りに地域の方を招いたり、避難訓練に地域の方の参加を得たりしている。また、前回の目標達成計画を踏まえた努力もあり、中学生の清掃、高校生の踊り、囲碁相手のボランティアがあったり、大学生の実習生の受け入れがあったり、日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天童市の認知症カフェ(あったカフェ)にGH協会員とし行政との連携から運営スタッフとして参加している。家族交流会には認知症への理解と支援の講話内容に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年/6回開催する運営推進会議は、利用者の支援・サービス内容の報告を行い、会議での意見を反映させている。職員も会議へ出席し全員が運営の内容を理解してもらっている。会議内容は記録を閲覧し職員内で共有している。	家族代表・市職員・包括センター職員・民生委員・老人クラブ役員・福祉協力員と職員で構成する運営推進会議を、2ヶ月に1回、昼食の試食を挟んで開催している。毎月の事業所お便り等を基に、事業所の運営・活動状況を報告した後、率直な意見を頂いている。その意見等から、火災訓練への協力、地域行事への参加などが実現した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	二カ月に一度の介護相談委員の来訪や、運営推進会議に市の担当者からも出席して頂き、事業所の実情や取組み等を伝えている。	運営推進会議に毎回市の職員の参加を得、また、市の介護相談員から年に6回訪問を受けている。一方、市の介護サービス事業所連絡会議には毎回参加している。その際に事業所の近況報告や連絡を行っている。また、市の「あったカフェ」に協力しているが、それには事業所の利用者も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束しない方針で取組、研修に参加し、尊厳ある暮らしを提供できる事について委員会で検討をおこなっている。玄関は施錠せずセンサーチャイムで外に出ていく入居者には、付添いし、拘束しない工夫の対応に努めている。	様々な研修で拘束をしないケアのあり方を学ぶとともに、委員会で検討した事例を全体会議やユニット会議の後に話合っ、拘束をしない支援を実践している。職員は禁止の対象となる具体的な行為をよく理解しており、外出した利用者についても、付添いと誘導で拘束しない支援が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、研修内容の回覧・全体会議で研修報告を行っている。虐待の種類やどこからが虐待になるのかを学びケアを見つめ直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、施設内研修を行い職員同士で話し合い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの十分な説明と家族との絆を継続できる方法を納得いただいた上で契約を詳細に説明を行う。入居後の相談も随時お受けし家族との信頼関係を築く大切な機会と意識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や来訪時にどんな事でも記入していただける様に玄関にノートを置いている。家族を対象にアンケートも行っており、意見や要望について話し合いを行い、改善策については回答をし運営推進会議に情報とし伝えている。	毎年、利用者・家族にアンケートを行い意見を伺っている。また、年2回は家族交流会や家族も参加した外出行事を実施しており、その言い易い環境の中で要望や意見を頂戴している。意見箱も設置している。出された意見は全体会議等の機会に職員間で話し合い、運営に反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、管理者も同席し全体会議を行っている。そこで出た職員の意見や提案を反映し実行している。職員一人一人の意見や思いを常に聞き入れられ、互いにアドバイスを行える環境が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、勤務時間・勤務体制等を変更している。給与・手当においても勤務状況を考慮したものとなっている。受講したい研修の希望も取り入れており、やりがいのある職場環境である。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修を行ったり、外部より講師を招いて研修も行っている。又、職員の希望の研修を聞き積極的に参加している。	毎月、認知症リーダー研修修了者を中心に、折々の課題で、時には外部講師を招き内部研修を行っている。また、職員の希望を聴きながら適切な研修に派遣したりして、能力の向上を図り、サービスの向上を図っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホームと年に2回合同研修会を行い、交流をしている。又山形県GH協会の交換実習に参加し、情報交換等とお互いの事業所の良い所を取り入れ、見直す機会になっている。村山ブロックGH協会の研修で交流を通し相互関係を図っている。	年2回、市内のグループホームと合同研修会を行い、課題や事例を話し合うとともに、職員の交流を図っている。また、山形県GH協会や村山ブロックGH協会の大会・研修会や交換実習に参加させながら、職員の情報交換とネットワークの拡大を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネからの情報や家族と入居者面談をし本人や家族の要望を確認し反映させ、困ったことがないか耳を傾けている。安心して暮らせるよう配慮し、信頼関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は、家族や本人が不安に感じている事や要望等をしっかり聞き、連絡を密にする。入居者と家族が慣れない為、理解しやすく丁寧な説明で信頼関係を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、環境を考慮し、本人・家族・ケアマネジャーと密に連絡を取り、必要なサービスが提供できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体を忘れず、本人の出来る事のアセスメントで活用できる環境を整え、家事等を一緒に行ったり、買い物へ行ったり、共同生活の関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会では入居者の生活状況を可能な限りお伝えし、日常を写真や、毎月のおたよりで発信し理解いただく事に努めている。家族の面会が頻回に来れる環境を提供している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別ケアの外出は、希望の場所へ企画し職員と外出の機会を実施している。又定期的に自由に外出する目的にNPO法人ボランティアの利用も活用している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに快適で穏やかな生活の場になるよう、性格的な面も考慮したテーブル配置をしている。会話が不得意でもホールで過ごす事で仲間意識が保持されています。言葉の抑制が出来なく感情的な発言で不快感が出ないよう職員が介入し上手く場の雰囲気を保つよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、本人や家族の相談にいつでも応えられるように努めている。又入院による一時退居時も家族と連絡を取りサポートを行っている。		

**Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がどんな生活を送りたいのか、楽しいと感じる事は何かを把握に努めている。思いを伝えられない方は表情や仕草から思いを汲み取るような働きかけを行っている。センター方式の一部を用いて思いや意向を記入しプランに活用している。	利用開始前からセンター方式シートやマンダラートシートを用いて、どういう生活をしたのか、何が楽しいのか等、思いや意向の把握に努めている。それを踏まえて、日常生活における表情、言葉から利用者の思いを汲み取るよう努め、全員で利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談での聞き取りや、自宅、病院、施設等に行き、本人、家族、ケアマネージャー、関係者より情報を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時、センター方式やマンダラートを活用して一人一人の事を把握出来るよう努力している。ユニットノートを活用し、現状や変化を伝え、職員間で情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎のケアプラン見直しを行い、センター方式やマンダラートを利用しアセスメントを行い、前回の評価も取り入れ、ケアプランに反映させている。ユニット会議や全体会議で職員間の意見も反映されるケアプランを作成している。	特に変化がなければ3か月毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。センター方式シートや皆で書きこんだマンダラートシートを踏まえながら、全体検討会議で、全員による話し合いを行い、意見やアイデアを出し合っ、本人に相応しい計画に仕上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケアプランの内容に沿った記録を行い、特記があれば介護録に記入している。情報を共有する事で、どうすれば良いか見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	土手や地域の公園に散歩に出掛け、地域の方々や子供達との会話を通じ、地域の中での安全な生活を支援している。買物、美容室と近所の店を利用し関わりを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体の状態、生活の様子を情報提供書を作成し、家族にも内容を説明した上で、主治医に書面にて報告している。医師の指示内容の報告を受けている。月1回内科医の往診を受けている。	本人家族の希望するかかりつけ医を、原則家族の付添いで受診できるよう支援している。また、月1回協力医の内科診察が受けられる。受診に際しては、生活情報等を記載した情報提供書を作成して主治医に提供している。聞き取った診察の結果は情報提供書に記載して情報の一括化を図っている。同書に医師から直接診察結果を記入していた場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を行っており定期的に訪問看護師による健康管理のチェックと体調不良時の観察が受けられている。急変時の対応と受診の有無の適切な指示が得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、サマリーを通して情報交換している。家族からの情報と定期的な面会と、状態変化と現状の把握をしている。退院時は、面談に行き退院後の生活について医療連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態や状況から御本人、家族の意向を伺い、かかりつけ医、訪問看護師との協力体制が確保された支援方針を決めている。職員の看取りへの取組とし研修を積極的に行い意識の啓発に努めている。	入居時、家族等に、事業所で可能なことの説明を十分に行っている。重度化した場合、機能低下により対応が難しくなった場合は、指針に基づき、家族や医師等関係者と十分協議して方針を立て、対応している。また、看取りについての意識啓発と、基本知識習得の為の研修は行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに添った対応と、緊急時対応の受講には、消防署の職員による実演で心肺蘇生法を学んでいる。避難訓練の他に離設された時の訓練や、感染症の応急的な処置の実演も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には職員全員が動ける様に、避難訓練を行っている。年に一回地域の方々の参加で、協力体制を築いている。	年に4回、火災・水害・地震等を想定して避難訓練を実施している。そのうち1回は、敷地内他施設と合同で、消防署と地域の協力・応援を得て、本格的な訓練を行っている。夜間の招集訓練やAED使用訓練の実施経験もある。水や食料の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格を理解し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けで心地よい雰囲気而努力している。各会議の中で尊厳についての話し合いがあり対応のスキルに努力している。	センター方式様式を使用して詳しく記載した記録を基に、一人ひとりの生活歴や性格を全員で理解し合いながら、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応に努力している。サービス改善委員会を中心にして、今年「声掛けのあり方」について研修し、不快な言葉をかけないスキルの向上を図った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を言いやすい環境作りに努力している。常に自己決定の場を作り、自立支援に努力している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	嗜好について聞き、その人に合った食品を提供している。食事のペース・入浴時間、長さ、休憩時間等、その人の希望や体調、気分に合わせて対応を毎日行っている。囲碁や習字等、外出や買い物など趣味活動も行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選んで頂き、整容出来るよう、鏡、ブラシ等を準備したり、必要な方へ化粧品の準備等を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを把握して、楽しむことが出来るように努力している。家事についても、1人1人出来る事に参加して頂く事で、楽しみや自信、意欲につながる様に支援している。	過去の献立や利用者の声を参考に作成された献立を基に、三食とも手作りで、家庭的な食事を作っている。折々に、牡丹餅や笹巻き・しそ巻き・流しそうめんなど季節感のある食事を、職員と利用者が一緒に食べている。選択メニューを用意したり、寿司やスイーツなどの外食を楽しんだりする機会も作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給表を活用し各人の水分量の確認を行い、既往歴、咀嚼や嚥下の状態に合わせて食事形態の対応をしている。水分が進まない方には、ゼリーで提供したり場所を変えてみたり工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。声掛け、見守りの中、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、1人1人の排泄状況を確認し、誘導時間を調整したり、自分で出来る事は行って頂く事で残存機能を活かせる支援を行っている。	一人ひとりの排泄チェック表を基に皆で話し合いながら、できるだけ自分でトイレで排泄できるように見守りや誘導を行っている。多くのトイレがあることも有り、パットやリハパンの活用によって、殆どが自立した排泄が可能である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日昼食前に、体操と歌を取り入れて体を動かす機会を作っている。又、毎日牛乳とゼリーを工夫して摂取している。一人一人の排便状況を把握しその人に合った方法を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間の希望に合わせた時間帯や入浴の有無の確認を行っている。温泉浴を利用のため、体があったまると喜ばれている。入浴剤を使用したり、変わり風呂等を行い楽しんで頂いている。	本人の体調や希望を踏まえながら、概ね午後後に、一日置きに入浴してもらっている。両ユニットに温泉があるので、温泉・シャワー等の希望に沿って支援できている。バラ風呂や入浴剤の使用など、入浴を楽しめるように意を用いながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人その日の体調に合わせた休息をとり生活のリズムを作る事でも安心につなげている。眠剤に依存しないで就寝できるよう日中の活動の工夫に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から届く薬品は、処方箋通りの薬品かの確認と、職員は薬の効能と副作用を理解し、薬の変更があれば状態観察を行い、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の得意な事や一緒に作業をする事が、張り合いや喜び、楽しみを感じる様支援に努めている。その方が関わる事(家事や趣味等)が自信と、役に立てる喜びを実感していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外に出る外出支援は、希望の時や、声掛けで買い物やドライブへ行ったり、個別で希望に沿った場所に出向くことで日頃見られないうきうき感と脱日常の時間を楽しんでいます。家族交流会は年/2回の開催で、大勢の家族参加の楽しみになっている。	一人ひとりの体調や希望を踏まえながら、できるだけ外気に触れ、刺激を受けられるように配慮している。ゴーヤや朝顔の観賞、野菜作り、隣接する施設・神社・果樹園の散歩、買い物などを、日頃から支援している。また、家族の協力で一時的帰宅なども楽しんでもらっているし、年2回、家族交流会で外出行事も楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している事で安心する方もおり、ご家族と相談し対応している。ショッピングの時の支払は職員がそばで見守り支払するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて電話を掛けまた、家族や友人へ手紙を書いている。毎年、年賀状を作成し、写真や一言を添え送っている。遠方の保証人には、郵送で定期的な情報を届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は天窓から差し込む日差しを遮れるようにすだれを設置したり、温度や湿度を気にかけて適度な換気を行っている。廊下や居室に日常の風景を撮った写真が飾られていたり、ホールには季節を取り入れた装飾をしている。	居間は、広く、柱等には木材が多く使用され、ゆったり感がある。現在は、すだれによって天窓から差し込む夏の日差しが遮られ、温度や湿度が調整されている。居間に接する和室には掘り炬燵などもある。また、居間や廊下には、利用者等を写した楽しそうな写真が貼ってあり、飾り物も置かれ、臭いもない。利用者はそこで、テレビを観たり寛いだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるホールには、掘りごたつのある和室やソファ、外に向けた広い縁側等が設けてる。玄関先や神社にはベンチが設置してあり、気の合う方とゆっくりくつろぐスペースがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し使用している家具や馴染の私物の持参したり、好きな花や写真を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。	居室は、それぞれ慣れ親しんだ家具などが持ち込まれ、好みに応じて整理され、お気に入りの家族との写真や人形等が飾られ、それぞれの雰囲気が漂っている。清掃も行き届き、居心地が良さそうである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で歩行の妨げにならないような家具の位置の工夫、タンスの引き出しに衣類の名前を貼り自立を促している。建物内部に危険箇所がないか毎月点検を行い改善に努めている。		